

## 「神への献身」

§ 054 マタ 6 : 19~34

### 1. はじめに

#### (1) 山上の垂訓の構成

\* AT ロバートソンは、8つに区分している。

- ① 八福の教え (5 : 3~12)
- ② メシアの義とパリサイ人の義 (5 : 13~20)
- ③ メシアの義の6つの例 (5 : 21~48)
- ④ 義の実行の3つの例 (6 : 1~18)
- ⑤ 神への献身 (6 : 19~34)
- ⑥ 他者を裁くこと (7 : 1~6)
- ⑦ 祈りと黄金律 (7 : 7~12)
- ⑧ たとえ話による結論 (7 : 13~8 : 1)

#### (2) きょうは、⑤の神への献身を取り上げる。

- ① これらの内容の多くは、後になって教会時代にも適用されるものである。
- ② しかし、ここでのイエスの説明は、モーセの律法の意図を解説したものである。
- ③ イエスは特に、口伝律法(ミシュナ)を否定された。

### 2. アウトライン

- (1) お金について (19~24 節)
- (2) 思い煩いについて (25~34 節)

### 3. 結論 : 現代的適用

このメッセージは、神への献身について学ぼうとするものである。

#### I. お金について (19~24 節)

##### 1. 19~21 節

「自分の宝を地上にたくわえるのはやめなさい。そこでは虫とさびで、きず物になり、また盗人が穴をあけて盗みます。自分の宝は、天にたくわえなさい。そこでは、虫もさびもつかず、盗人が穴をあけて盗むこともありません。あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです」

- (1) ユダヤ的背景

「神への献身」

- ①ユダヤ教では、物質的豊かさは、神の祝福を受けていることの証拠となった。
- ②彼らは、「神は、愛する者を富ませる」と教えていた。
- ③それゆえ、パリサイ人たちは熱心に富を追及した。

(2) 裕福なユダヤ人たちの財産管理法

\*盗人に盗まれないために

- ①両替人に投資をする。
- ②神殿に預ける。
  - \*いかなる盗人でも、神のものを盗むことには抵抗があった。
- ③地下に埋めたり、洞窟に隠したりした。
  - \*その場合、衣服には虫が付く。
  - \*金属にはさびが付く。

(3) 天に宝を蓄える。

- ①地上の宝は一時的である。
- ②ヤコ5:1~3
  - 「聞きなさい。金持ちたち。あなたがたの上に迫って来る悲慘を思って泣き叫びなさい。あなたがたの富は腐っており、あなたがたの着物は虫に食われており、あなたがたの金銀にはさびが来て、そのさびが、あなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財宝をたくわえました」
- ③しかし、天に蓄えられた宝は永遠である。
- ④天に宝を蓄えるとは、永遠に価値あることのために、才能、時、金などを用いることである。
- ⑤天に宝があれば、私たちの心もそこにある。
  - \*バランスの取れた人生観を持つようになる。
  - \*物に対する執着も、将来への不安もなくなる。

2. 22~23 節

「からだのあかりは目です。それで、もしあなたの目が健全なら、あなたの全身が明るい  
が、もし、目が悪ければ、あなたの全身が暗いでしょう。それなら、もしあなたのうちの  
光が暗ければ、その暗さはどんなでしょう」

(1) 訳文の比較

- ①「からだのあかりは目です」(新改訳)
- ②「体のともし火は目である」(新共同訳)

③「目はからだのあかりである」(口語訳)

(2) ユダヤ的背景

①多くの人が、目から光が出て、ものが見えるようになると考えていた。

\*つまり、目がランプの役割を果たしていると考えていたのだ。

\*目から光が入るという考え方もあった。

\*ここでは、その両方の考え方が反映されている。

②「目が健全なら」: 英語で「single」である。

③「目が悪ければ」: 英語で「evil」である。

④寛容な人と、貪欲な人が対比されている。

(3) お金に関して正しい視点を持たなければ、その人の人生は暗いものになる。

①その人は、ランプなしで夜道を歩いているかのようだ。

②またその人は、外光が入らない家に住んでいるかのようだ。

3. 24節

**「だれも、ふたりの主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛したり、一方を重んじて他方を軽んじたりするからです。あなたがたは、神にも仕え、また富にも仕えるということはできません」**

(1) ふたりの主人が、ひとりの奴隷を共有することはない。

①奴隷に対する要求がぶつかり合う。

(2) ひとりの奴隷が、ふたりの主人に仕えることもない。

①どちらかを優先させることになる。

(3) 人は、神と富の両方に仕えることはできない。

①「富」は「マモン」である。

②ギリシア語では「マモウナス」である。

\*元の意味は、「自信」「確信」、英語の「confidence」である。

\*比喩的に「富」を現す。擬人法的使用。

\*それが神格化され、偶像となる。

③金持ちは、自信がある。自身の源は、「マモン」という偶像である。

④問うべきは、「私は物質に仕えているのか、神に仕えているのか」である。

## II. 思い煩いについて (25～34 節)

### 1. 25 節

「だから、わたしはあなたがたに言います。自分のいのちのことで、何を食べようか、何を飲もうかと心配したり、また、からだのことで、何を着ようかと心配したりしてはいけません。いのちは食べ物よりたいせつなもの、からだは着物よりたいせつなものではありませんか」

(1) 思い煩いは、神に信頼していない人の心の状態である。

①ここで取り上げられているのは、きょうの食事や衣服のことではない。

②5年後、10年後、20年後への不安である。

(2) 当時の庶民の生活

①生活の必需品しか持っていない人が大半であった。

②パレスチナでは雨が、エジプト人ではナイル川の氾濫が、食物を提供した。

③人々は、毎年、思い煩いの中にいた。

### 2. 26～27 節

「空の鳥を見なさい。種蒔きもせず、刈り入れもせず、倉に納めることもしません。けれども、あなたがたの天の父がこれを養っていてくださるのです。あなたがたは、鳥よりも、もっとすぐれたものではありませんか。あなたがたのうちだれが、心配したからといって、自分のいのちを少しでも延ばすことができますか」

(1) ここは、カル・バホメル (大から小へ) の議論である。

①ユダヤ的教授法である。

(2) 空の鳥が大である。

①被造の世界の動物たちは、意識的に生産活動をしているわけではない。

②しかし、神は彼らを養ってくださる。

(3) 人が小である。

①人は鳥よりも優れている。

②それゆえ、神が人を養ってくださるのは、より容易である。

(4) これは、労働を否定したり、怠惰を奨励したりしているのではない。

①2テサ3:10には、「働きたくない者は食べるな」という言葉がある。

②ましてや、あなたがたの場合は、労働に従事しているのだから…。

(5) 心配しても、寿命は延びない。

### 3. 28～30 節

「なぜ着物のことで心配するのですか。野のゆりがどうして育つのか、よくわきまえなさい。働きもせず、紡ぎもしません。しかし、わたしはあなたがたに言います。栄華を窮めたソロモンでさえ、このような花の一つほどにも着飾ってはいませんでした。きょうあつても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。信仰の薄い人たち」

(1) 野のゆり(野の花)が大である。

- ①恐らくアネモネであろう。
- ②アネモネの紫色とソロモンの王服の色が対比されている。
- ③野の花は、労せずして美しく着飾っている。
- ④野の花は、枯れると炉に投げ込まれる。
- ⑤そのような野の花がこれほど着飾っているのである。

(2) 人が小である。

- ①人は、野のゆりよりも優れている。
- ②それゆえ、神が人によくしてくださるのは、容易なことである。

### 4. 31～34 節

「そういうわけだから、何を食べるか、何を飲むか、何を着るか、などと言って心配するのはやめなさい。こういうものはみな、異邦人が切に求めているものなのです。しかし、あなたがたの天の父は、それがみなあなたがたに必要であることを知っておられます。だから、神の国とその義とをまず第一に求めなさい。そうすれば、それに加えて、これらのものはすべて与えられます。だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります」

(1) 神を知らない異邦人は、富の追求だけで人生を終える。

(2) 思い煩いへの処方箋

- ①天の父は、私の必要をすべてご存じである。
- ②「神の国とその義をまず第一に求める」
  - \*神の支配と神の御心を優先させる。
  - \*その人には、必要なものが与えられる。

(3) 信者の基本的な人生観

- ①将来のことを心配しない。
- ②きょうという日を、精一杯生きる。

5. ここに書かれていることは、絶対的な原則ではない。
- (1) 迫害の時には、信仰者は物質的欠乏や、時には死を経験することさえある。
  - (2) しかし、信仰者の魂は害から守られる。

#### 結論：

1. きょうのテーマは、「将来の生活の保証」である。
- (1) これは、極めて現代的テーマでもある。
  - (2) 物質の重要性を否定してはならない。
  - (3) バランスを崩すことが問題なのである。
  - (4) 将来への不安は、不信仰から出ている。
  - (5) 不信仰が能動的に働くと、富の追及に至る。
  - (6) 不信仰が受動的に働くと、思い煩いに至る。

#### 2. 能動的不信仰

- (1) マタ6:21

「あなたの宝のあるところに、あなたの心もあるからです」

- ①地上の富に心が囚われているなら、その人の心は地上にある。
- ②天に宝を蓄えている人の心は、天上にある。
- ③富に仕えている人の問題は、本来あるべき人生を生きていないことにある。

#### 3. 受動的不信仰

- (1) マタ6:30

「きょうあっても、あすは炉に投げ込まれる野の草さえ、神はこれほどに装ってくださるのだから、ましてあなたがたに、よくして下さらないわけがありませんか。  
信仰の薄い人たち」

- ①思い煩いは、信仰の問題である。

#### 4. 物質主義と思い煩いが否定される理由

- (1) 神から与えられた人生も、その目的も、破壊されるから。
- (2) 神を愛し、神を礼拝し、神に仕えることが、人生の目的である。
- (3) 神は、私たちがその日その日を、喜んで生きることを願っておられる。